

令和7年度授業改善推進プラン（校長作成シート）

学校名 西東京市立保谷小学校
校長名 久森 信

1 調査結果を踏まえた本校の状況

本校の6年生児童の実態として、昨年度まで学習規律が定着せず、生活指導上の課題も多かった。そのため、全体として学習への興味・関心が低く、基礎的・基本的な学力の定着に課題があった。6年生に進級したことで、学校生活面での改善意欲が見られるが、低中学年からの積み重ねが不足している。

国語においては、全国・東京都の平均を大きく下回っており、「知識及び技能」における（1）言葉の特徴や使い方に関する事項が東京都より15.6ポイント、「思考力、判断力、表現力等」におけるC読むことが東京都より11ポイントと大きく下回っている。また、問題形式の記述式でも6.4ポイント低く、課題がある。

算数においては、全国平均は上回っているが、東京都平均より4ポイント低い。領域として「B図形」が7.6ポイント、評価の観点「思考・判断・表現」が6.6ポイント、問題形式では「記述式」が8.8ポイント、東京都平均よりも下回っている。

理科においては、全国・東京都の平均を下回っている。特にA区分の「エネルギー」を柱とする領域で7.1ポイント、B区分の「生命」を柱とする領域で7ポイント、問題形式の記述式では6.7ポイント、東京都平均を下回っている。

全体的な傾向として、記述式の問題形式に課題があることが分かる。国語の正答率が全国・東京都平均を下回ることとの関連も考えていかないとならない。

2 教員組織等の状況

今年度より校務分掌組織を大きく変更した。「教務・研究部」「生活・特別支援部」「特別活動・経営管理部」の3分掌組織に改編した。教務・研究部内の学力向上担当者を中心として、学力向上の取組を行っている。3つの分掌主任、管理職で行う企画会議で校長の経営方針や課題を整理し、学校運営を行っている。特別な支援や配慮を必要とする児童も多数在籍しており、個々の教員の経験や指導力に差がある。それを解消するために、校内委員会を中心に具体的な対応策を考えて、担任が一人で対応するのではなく、学年や学校全体で対応するように実践している。

3 地域の状況

本校は、昨年度創立150周年を迎えた伝統校である。保護者や祖父母も本校卒業生であるなど、地域に根ざした学校である。またコミュニティ・スクールとしても3年目を迎え、地域の力を取り入れた教育活動を推進している。その一方で共働き家庭も多くなり、これまでの様なPTA活動を継続していくことが難しくなり、来年度に向けてPTAの任意加入制度を進めている。この先、従来の様にPTAが中心となって、学校の教育活動支援を継続することは困難となる。そこで、コミュニティ・スクールの強みを生かし、今後は学校運営協議会が中心となって、教育活動支援を保護者（PTA）・地域が一体となって推進する体制を構築し、地域の学校として持続可能な学校運営をしていくことが必要である。

4 前年度までに行った学力向上に係る取組を踏まえた本校の状況

令和6年度までに行った学力向上に係る取組は、「個別学習」と「のびっこタイム」である。

【個別学習】

- ・学年で毎月4回以上（曜日指定なし）、放課後に20分程度実施した。
- ・内容は、ベーシックドリルに限らず、他の課題も可能とした。

【のびっこタイムについて】

- ・授業時間内で現学年の学習内容の習熟を図ることを目的とし、実施方法は学年の実態に応じて柔軟に設定した。

例：①学年を習熟度別に分けて実施する。

②クラス単位で、児童の実態に応じて課題を選ばせる

- ・のびっこタイム担当が各学年の実施日を集約し、入る専科教員を調整して、空き時間の専科教員も指導に当たり、各学年・学期に2回以上は実施した。

しかし、東京ベーシックドリル診断テストから、前学年までの基礎学力の定着が見られない実態がある。特に、かけ算九九の定着や図形の名称を理解できていない児童が多い。

どの学年も繰り返し学習することが必要で、定期的に苦手だった問題をプリントにして復習する機会を月に1回以上とることを目指す。また、習熟度別学習においても、既習事項を振り返りながら新しい学習に取り組むことを意識して取り組んでいる。

学年算数少人数会議で指導方法の工夫（導入や発問の工夫、教材の工夫）を徹底している。また、個別最適な学習の推進として、早く課題が終わった児童には「e ライブライ」をさせることが定着しつつある。児童自らが自己の能力や課題に応じた学習内容を選び、主体的に学びに向かう姿の育成につながっている。

上位層の引き上げについては課題が残る。上位層の中でも習熟度の差があるため、習熟の早い児童を含めたグループピングをしたり、考え方を説明させたりしながら、質問を受けながら、理解を深める活動を行う。全てのコースで児童自らが問い合わせを見付け問題に対して主体的に関わったり、友達の考えと比べつなげたりして、自分の考えをより良いものにすることができる授業づくりを目指している。

5 本校で取り組む学力向上策

- ① 校内研究（国語科）主題を「主体的に学ぶ児童の育成～話す・聞く活動を通して～」とし、他者と考えを交流しながら、自分の考えを広げ深めていく児童の育成を目指す。
- ② 年間を通して自分の考えをまとめ、「表現する力・書く力」の向上に向けた実践を積み上げていく。書字が苦手な児童にはタブレットの活用も推進する。（記述式問題への対策）
- ③ 特別支援教育の視点を取り入れた指導方法・授業改善やユニバーサルデザインを意識した教室環境の整備を進める。また、読み書きアセスメント導入に向けたOJTを推進する。
- ④ 東京ベーシックドリルに取り組み、結果を算数主熟度別担当教員が中心となり分析し、のびっこタイムを効果的に活用して、基礎的・基本的な学力の向上に努める。
- ⑤ 家庭学習及び読書時間を増やす取組を行う。家庭学習に対しては、タブレットの効果的な活用や保護者会・面談・学校たより等を通じての啓発、高学年は小中連携活動を通じたキャリア教育を推進することで、将来のあるべき自分を描ける指導を推進する。また朝読書・読書月間を推進する。